



スノーボード



スノーボードは2014年ソチ大会でパラリンピックデビューを果たしました。ソチ大会ではアルペンスキーの一種目として実施されましたが、平昌大会からは独立した一競技として行われます。

パラリンピックにおけるスノーボードは、World Para Snowboardが定めるルールに準じて行われます。障がいの種類と程度によってクラスが分かれ、その中で男女別に順位を競います。

ソチ大会では男女それぞれ一つのクラス・種目のみが行われましたが、平昌大会では男子3クラス、女子2クラスでそれぞれ2種目の実施が予定されています。

◎ クラス分け

スノーボードでは障がいの種類と程度で3つのクラスに分かれて競技を行います。

● 上肢障がいクラス (SB-UL)

上肢に障がいのある選手が出場するのがSB-ULクラス。平昌大会では男子のみでこのクラスが実施されます。



● 下肢障がいクラス (SB-LL1、SB-LL2)

下肢に障がいのある選手が出場するのがSB-LL1クラスとSB-LL2クラスの2クラスです。SB-LL1クラスには、膝より上の切断など比較的軽度な下肢障がいの選手が出場します。SB-LL2クラスは、膝より下の切断やまひなどSB-LL1クラスよりも軽度の下肢障がいの選手が出場します。



義足で滑るSB-LL1クラスの選手



軽度な下肢障がいのSB-LL2クラス

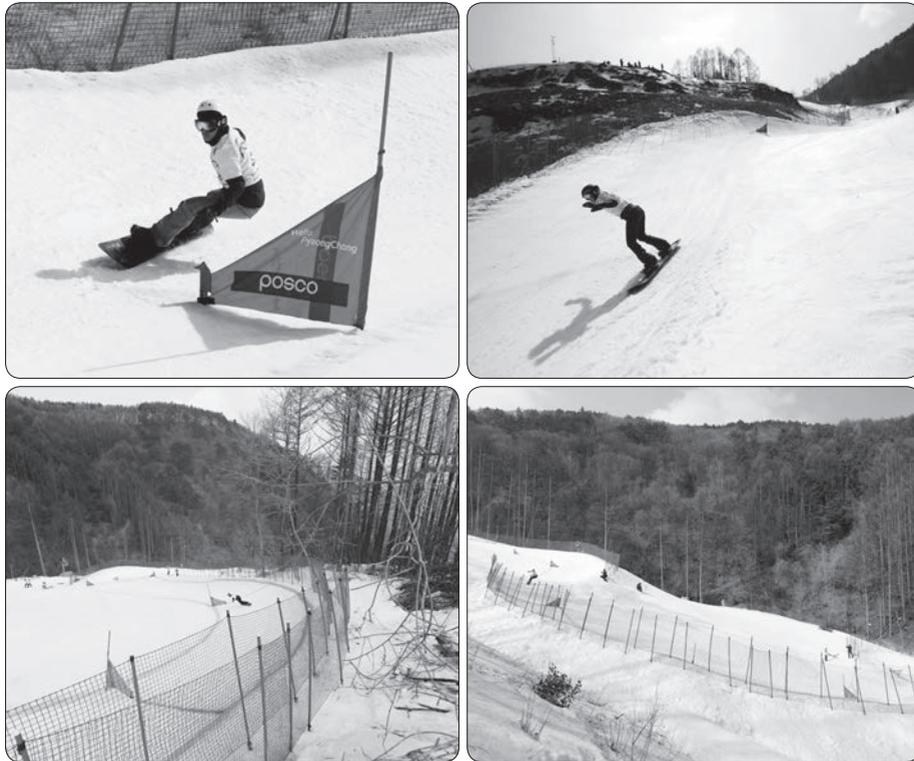
◎ 実施種目

平昌大会では、バンクドスラロームとスノーボードクロス の2種目が行われます。

● バンクドスラローム

選手1名ずつが旗門の設置されたコースを滑り、その滑走タイムを競う種目です。

- 1 各選手がバンク（傾斜のあるカーブ）などのあるテクニカルなコースを3回ずつ滑ります。



- 2 3回滑ったタイムのうち、最も速いタイムで順位を決定します。

● スノーボードクロス

予選ラウンド→決勝ラウンドで順位を競う種目で、特に決勝ラウンドは選手2名が同時スタートして先にゴールした方が勝つシンプルでエキサイティングなレースが見どころです。

- 1 予選ラウンドでは通常、選手1名ずつがコースを2回滑り、早い方のタイムで決勝ラウンドへの進出とその組み合わせが決まります。



- 2 決勝ラウンドでは選手2名ずつの勝ち抜き戦が行われます。同時にスタートし、ジャンプ台やバンク、ウェーブ（波型の雪面）などのあるコースを滑って先にゴールした選手の勝利ですが、例えリードしていても転倒してしまえば一瞬で抜かれてしまうため、最後まで気が抜けません。最終的には最後まで勝ち抜いた選手の優勝となります。



各セクションを滑りながら相手との駆け引きも行います

選手同士の激しい接触があることも